“手の中すっぽり”の実感カメラ ローライSL86

写真で見るといかにもスマートで持ちやすそうに見えるのに実際手にとってみると意外にも使いにくいというカメラがある。

反対に写真や説明でいくらコンパクトだ。使いやすいといわれてもピンとこないのもある。

ここに紹介するローライSL86は後者のほうで、写真でスマートさ、コンパクトさは分っても、本当の使いよさ、持ちやすさはとうてい分ってもらえそうにもない。それほど、このカメラは掌にぴったりとして、持ちやすく写しやすく、軽便なのだというわけ。実物を手に取ってみてだれもが「なるほど」と納得がゆく、正真正銘のコンパクトさ、それがこのカメラの最大の特長といってよい。

今やコンパクトズームカメラの花盛りだが、それらの中でもっとも持ちやすいカメラと断言できるほど。

右手で写真のようにカメラを横づかみするように構える。必要とあらば左手だけの片手撮りも充分おすすめできるが、まあ普段は左手も軽くそえたいところ。当然、手動ズームは左手で操作する。

シャッターボタンはボディ上部にある丸い押しボタン。人差指で操作する。ぜいたくなことにマグネチックレリーズである。オン・オフの感触もよく、メカの作動もしゃきっとしていて気持ちがよい。

ただ単にボディを小さく軽くして持ちやすくしただけでなく、マグネチックレリーズ機構を採用して、シャッターの操作性を大巾に向上させている。だから使いやすい。片手撮りでも、シャッターを押すとき、はなすときカメラぶれが全くない。

ボディはオールプラスチック製だが安っぽさはみじんもない。しぼり型押しと角丸の流線形ラインの黒づくめの落着いたデザイン。仕上げもていねいで、ゴテゴテとダイヤルやノブがついていないのがよい。とにかくボディ表面にくっついているものはといえば、上部にシャッター、左面にフィルター切換えスイッチとフィルムカウンター、右面にフィルム室開閉ノブだけである。

レンズはF1.8 12～30ミリの2.5倍ズーム付、一眼レフ式ファインダーで、目測式ピント合せ。(1.5m～∞)。ズームはレバー式。手動のみ。18コマオンリー。TTL式EEで手動や逆光補正はなし。F値文字、露出不足がファインダー内に表示される。フィルム走行及び終了もフリッカーランプで表示される。

電源は単三2本のみ。水銀電池不要。バッテリーチェッカーなし。電源オフのスイッチもない。ランロックもできない。ムービーライト取付箇所もないが三脚穴はある。

とにかく徹底的に簡素化して、コンパクトカメラとして必要最小限のものだけしかない。しかし、シャッターロックか電源オフがないのは、シャッターが軽いだけに不安。価格は5.2万円。本庄商会扱い。

ボディの左側面にふくらみがありいかにも左手にすっぽりフィットしそうだが，実際は右手のほうが持ちやすい。また携行するには左写真のようにリストストラップを手くびにかけ，ごく自然にボディを横づかみするとよい。ブラブラ歩きの観光旅行に最適。ケースは保存用。

〈次号予告〉

今月新製品として紹介したシルマ・ビボックス"D"とエルモEL50C9ほかに、ミノルタXL400、パワーズーム付ライキナスペシャルほか、今秋にかけて発売される新製品を予定。